

南十字星

発行者
クイーンズランド
補習授業校
校長
丸山吉信

子供の日集会

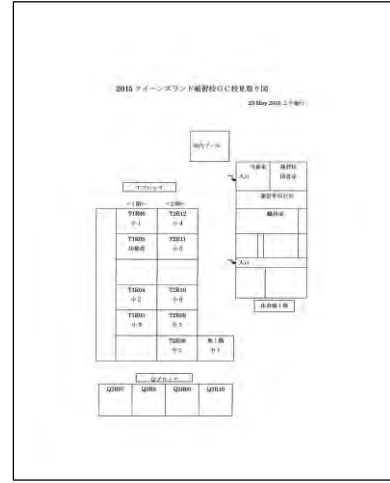
五月九日に「子供の日」のお祝いをしました。全校集会で中学生がこいのぼりを掲げる中、みんな元気に「屋根より高い♪」の歌詞の「こいのぼり」を歌いました。この後、吹き流し、真鯉、緋鯉、子鯉が揃って校舎の二階のベランダから下校時間まで子供たちを見守っていました。写真は、こいのぼりと一緒に記念撮影をした幼稚部の子供たちの写真です。



教室移動

五月二十三日から全クラスをTブロックに集めます。二十三日の送迎と授業参観の際に教室を間違えないよう

うご注意下さい。



移動クラスは、幼稚部、小一、中一〜中三です。図書室側一階の角の教室が小一になります。幼稚部は小一の隣、先週まで小一が使っていた教室に移動します。中一は体育館前の地上階教室、中二と中三は二階の奥(朝会広場側)になります。

授業参観

五月二十三日は授業参観日です。時間は一校時、九時一〇分から九時五〇分です。是非、教室に足をお運び下さい。その後、保護者会総会が一〇時開始されます。尚、中一は三〇日の二校時、幼稚部

は三〇日の一、二校時です。



算数の授業に集中する5年生

オープンデー

六月六日にオープンデーを開催します。八時五〇分からの全校朝会と九時一〇分からの一校時の授業を参観することができます。また、授業参観後、茶話会があります。どなたでも参加できますので、皆様お誘い合わせの上、是非お越し下さい。

海外子女文芸作品

コンクール

海外子女振興財団主催第三十六回海外子女文芸作品コンクールの案内をします。募集要項は海外子女教育振興財団のホームページをお読み下さい。昨年も私たちの補習校から入賞者

を出しましたが、今年も入賞できるよう、皆さんの力作を楽しみにしています。補習校での締め切りは六月二十七日です。整理後すぐに東京に送らなければなりませんので、締切日以後のものには残念ながら受付できません。

テーマは、海外生活を題材にしたものであれば自由で、ジャンルは、作文、詩、短歌、俳句の四部門です。ひとり何部門でも応募できますが、作文と詩はひとり一点、短歌と俳句は一人三点以内です。作文の枚数は、小学生が原稿用紙五枚以内、中学生が八枚以内です。詩は小中ともに三枚以内です。補習校からは作文用原稿用紙(財団名が中央に縦に書かれている原稿用紙)と詩用(財団名が右下に横に書かれている原稿用紙)を各一枚と各部門応募用紙を配布します。不足の用紙は、海外子女教育振興財団のホームページからダウンロードして下さい。URLは、<http://www.joes.or.jp/bungai>です。短歌と俳句は、所定の応募用紙に書いて下さい。作文と詩には、応募票を原稿用紙の右上にホッチキスで留めて下さい。提出の際は、コピーを必ず自分で取っておいて下さい。入賞した場合には、「南十字星」用に原稿の提出をお願いする予定です。

小学校道徳教育

今年から「道徳」の教科書が全員に配布されました。皆さんはもうお読みになったでしょうか。かなり前は小学校に道徳の教科書があったのですが、長い間、道徳の教科書は不在となり、「心のノート」という小冊子や副教材で授業が行われるようになっていました。このため、教える内容にばらつきがあったのですが、昨年からは教科書ができ、全国津々浦々同じ内容が教えられることになりました。そして、今年からは在外教育施設にもただけにすることになりました。

きょうは、文科省の道徳教育指導資料集の中から「レストランで」と題されたお話を紹介します。これはレストランで周囲の迷惑を考えずに携帯電話で大声で話す高校生を取り上げ、公衆道徳を教えようとするものです。最近、日本には大勢の外国人観光客が訪れ、日本人のマナーの良さに感嘆する声が寄せられています。日本では電車やバスの中で携帯電話で話す人はいません。小学校で公衆道徳を学ぶことが役に立っているのかもしれませんが、「道徳」の教科書を読み、ご家庭での話題に気に入った題材を是非取り上

げてみて下さい。

「レストランで」

今日はわたしの誕生日です。誕生日を家族でおいわいすることに、夕方から近くのレストランに出かけました。その日がちょうど日曜日だったので、わたしたちが着いたときには、レストランはお客さんでいっぱいでした。

たまたま入口近くのテーブルが空いて、そこにすわることができました。いつも来ているレストランでしたが、今日はわたしの誕生日ということもあり、いつもとはちがった気分でした。「さあ、あなたの好きなものをたのみなさい。」

「やったあ。」

と、おいしそうな物、食べたい物をみんな注文しました。

注文した物が来るまでの間、家族で色々な話をして待っていました。心からわたしの誕生日をおいわいしてくれていることがわかってきて、とてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

しばらくして、わたしは、近くのテーブルにすわっている三人の高校生くらいのお姉さんたちが気になりました。はじめました。三人ともけいたい電話で

しゃべっています。まわりの人の話し声が聞こえにくくなるくらい大きな声なのです。

レストランにいる人たちは、まわりの人たちのことを考えて、めいめいのかからない声でしずかにおしゃべりをしています。そんな中、大きな声で、けいたい電話でしゃべっている高校生くらいのお姉さんたち。

「今、わたし、レストランにいるの。友達といっしょよ。」

「ねえねえ、この前、たのんでおいたことできた。」

「今度またみんなで遊びに行こうね。」

三人とも、それぞれの電話の相手と話しています。

店の人が、

「ほかのお客様のごめいわくになりますから、けいたい電話はごえんりょください。」

と注意しても話しつづけています。

店の人のこまった顔がわたしの心に強くのこりました。

まわりの人たちも、三人をちらちら見ながら、めいめいそんな顔をしています。

わたしは、思わず、（ここはレストランです。みんなのことを考えてください！）と大声でさげびたくなりま

した。きっと、ほかの人も同じ気持ちだったと思います。

それから、わたしたちのテーブルには、注文した料理がどきどき、家族で楽しい時間を過ごすことができました。わたしにとって、すてきな誕生日になりました。

でも、レストランを出るとき、ふたたびわたしは、けいたい電話で大きな声で話していたお姉さんたちのすげえ話を思い出しました。

わたしは、（ここはレストランです。みんなのことを考えてください！）と、もう一度、大きな声でさげびたくりました。

